＜著者と語る・サイエンス読書カフェ 12月09日＞

カミオカンデの奇跡　48年目の真実

岐阜県・飛騨の山中、地下1000メートルの巨大な水槽。3000トンの純水を湛え、微かな光を検知する1,000個のセンサーを内壁に張り巡らした「カミオカンデ」は、1987年、超新星爆発からのニュートリノを世界で初めてとらえました。研究は後継の「スーパーカミオカンデ」に受け継がれ、2002年の小柴昌俊氏、2015年の梶田隆章氏のノーベル物理学賞受賞として結実しました。世界をリードしてきた日本のニュートリノ研究の歩み、挑んだ人たちの群像、行政や社会とのかかわり――。科学ジャーナリストの古川雅子さんがその全容を新著「カミオカンデの奇跡　48年目の真実」（新潮社刊）にまとめました。
2026年のノーベル物理学賞も、南極でのニュートリノ観測に贈られ、ニュートリノ研究はタイムリーな話題となっています。カフェでは、古川さんと共にそのドラマをひもとき、素粒子研究の“のぞき方”を披露してもらいます。

日時；2026年12月09日（水）午後6時15分から
場所；東京・大手町、読売新聞本社3階、新聞教室（地下鉄・大手町駅C-3出口）
今回も、会場と、オンラインの両方を使って開催します。
参加費；会場2000円、オンライン1800円
問い合わせ；よみうりカルチャー大手町スクール事務局　（03-3642-4301）
このサイトにも、案内があります。
会場受講：　https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202610-18011601.htm
オンライン：https://www.ync.ne.jp/otemachi/kouza/202610-18011602.htm



